

大会予稿集

第48回日本手話学会大会

2022年12月10日(土)

東京大学 (先端科学技術研究センター)



〈基調講演〉	カクチケル語の語順と認識	1
10:00~11:00	小泉 政利 (東北大学)・木山 幸子 (東北大学)	
〈基調講演〉	指さしと相互行為: 会話における指さしの多様な働きと指示の達成	3
11:00~12:00	安井 永子 (名古屋大学)	

〈研究発表〉	現代ラオス手話の語順	5
14:00~14:30	池田 ますみ (国立民族学博物館)・遠藤 栄太 (香港中文大学)	
〈研究発表〉	指差構文にみるオシツオサレツ表象	7
14:35~15:05	未森 明夫 (産業技術総合研究所)	
〈研究発表〉	日本手話の音声的手型と音素的手型	9
15:10~15:40	原 大介 (豊田工業大学)・三輪 誠 (豊田工業大学)	
〈研究発表〉	文末詞としての日本手話関西地域変種/ほんま/をめぐる考察	11
15:45~16:15	森 壮也 (アジア経済研究所) 松谷 千寿 (奈良県)	
〈研究発表〉	手話言語における「心」	13
16:20~16:50	高山 守 (東京大学)	

カクチケル語の語順と認識

小泉 政利* 木山 幸子

東北大学文学研究科言語学研究室 * Corresponding Author

言語の理解や産出の際に主語(S)が目的語(O)に先行する語順が好まれる(処理負荷が低く産出頻度が高い)傾向(SO 語順選好)が、VOS を統語的基本語順にもつカクチケル語にもみられるかどうかを確かめる研究を行った。その結果、カクチケル語では、理解や産出の際の処理負荷は統語構造が最もシンプルなVOS 語順が一番低いが、産出頻度は思考の順序を反映した SVO 語順が最も高いことが分かった。人間の認知能力を解明するためには、話者数の多い言語だけでなく多様な言語を研究することが重要である。

1. はじめに

言語は、線状性に従っている以上、語順を決めることが求められる。世界に7000以上ある言語が各々採用する語順は異なり、また多くの言語が随時語順を変えること(かき混ぜ)を許す。そうした差異は、人間の思考の順序とどのように関連しているのか。本講演では、心理/神経言語学的実験で得られた知見を紹介しながら、言語の語順と思考の順序の関係を考察する。

1.1. 語順の選好

複数の語順を許す言語において、動詞(verb: V)の位置に関わらず、主語(subject: S)が目的語(object: O)に先行する語順(SO 語順)が、その逆の目的語が主語に先行する語順(OS 語順)より母語話者に好まれる傾向があることが報告されている(SO 語順選好)(Koizumi 2023)。例えば語順のかき混ぜを許す日本語の他動詞文において、(1a)は(1b)より容易に理解され頻繁に産出されることが、反応時間や脳機能の指標を通して例証されている(Tamaoka et al. 2005, Kim et al. 2009, Imamura & Koizumi 2011)。

- (1) a. 直美がスイカを切った。[SOV]
- b. スイカを直美が切った。[OSV]

SO 語順は、言語の構造上好まれるのか(個別文法説)、それとも母語に関わらず人間に普遍的認知を反映するために好まれるのか(普遍認知説)。この疑問に答えるためには、SO 語順と OS 語順のそれぞれが統語的基本語順とされる複数の言語間で比較する必要がある。世界の言語の中で、SO 語順(SOV,

SVO, VSO)を統語的基本語順とする言語(SO 言語)が圧倒的に多いが、OS 語順(VOS, OVS, OSV)を基本とする言語(OS 言語)も少数ながら存在する。その1つがカクチケル語である。

1.2. カクチケル語

カクチケル語は、中米グアテマラの中中部で話されるマヤ諸語の1つである。カクチケル語では、他動詞文の6通りの語順が可能であるが、SOV と OSV はほとんど用いられないため、残る4通りの語順の統語構造を以下に示す(Koizumi 2023)。

- (2) カクチケル語の統語構造¹

VOS [VOS]
VSO [[V gap_i S] O_i]
SVO [S_i [VO gap_i]]
OVS [O_i [V gap_i S]]

カクチケル語では、VOS 語順が最も統語的にシンプルな構造を持つと想定されている。

2. 言語理解における語順の影響

講演者らの研究チームでは、カクチケル語母語話者にとっていずれの語順が容易に理解されるものなのかを確かめるために、種々の実験研究を行ってきた。行動指標では、VOS 語順が他の語順に比べて最も正答率が高くかつ反応時間が短かった(Kiyama et al. 2013, Koizumi et al. 2014)。脳波の事象関連電位(event-related potentials: ERP)では、VOS に比べ SVO の理解時に、言語の統語処理の処理負荷を反映する陽性電位(P600)が観察された(Yasunaga et al. 2015, Yano et al. 2017)。機能的

1 (2)の統語構造における gap は、統語的に本来の位置とは異なる位置に現れた転移要素(例えば SVO における S)の

本来の位置を示している。文の理解や産出の際に転移要素と gap とを関係付ける処理が行われると考えられている。

磁気共鳴画像法 (functional magnetic resonance imaging: fMRI) の実験では、やはり VOS より SVO の理解時に、言語の統語処理を担う左下前頭回が強く賦活した (Koizumi & Kim 2016)。これらの結果は、カクチケル語母語話者にとって、VOS 語順が最も処理負荷が低い (容易に理解される) ことを示唆する。

3. 言語産出における語順の影響

それでは、自分が話す時には、カクチケル語話者はどの語順を好むのだろうか。

カクチケル語話者が絵に描かれた出来事をカクチケル語で表現する際にどの語順をどの程度用いるか (産出頻度) を調べたところ、SVO が最も多く用いられ、VOS はその次であった (久保ほか 2015)。

次に、絵に描かれた出来事をカクチケル語で表現している際の脳活動 (産出時の処理負荷) を近赤外分光法 (near-infrared spectroscopy: NIRS) を用いて計測したところ、VOS より SVO の産出時に左下前頭回が強く賦活した (Koizumi et al. 2019)。

以上から、カクチケル語では、理解の際も産出の際も VOS が最も処理負荷が低いが、最も頻繁に用いられるのは SVO であることが分かった。1.1. で述べたように、SO 言語では、処理負荷が最も低い語順と産出頻度が最も高い語順が一致している。それに対して、OS 言語であるカクチケル語では、処理負荷の低い語順と産出頻度の高い語順が異なっていることが判明した。カクチケル語でこのような「ねじれ」が見られるのはなぜだろうか。それを検討するために、言葉を用いずに出来事を認識・記憶・表現する際の処理の順序 (思考の順序) を調べる実験を行った。

4. 言語の語順と思考の語順

SO 言語の話者を対象にジェスチャー産出実験を用いて思考の順序を調べた先行研究によると、動作主が人間で動作の対象が非生物であるような意味的に非可逆な事象 (「女の子が箱の蓋を開けた」) の場合は、言語でいえば SOV に相当する「動作主・対象・動作」の順序のジェスチャーが大多数であった (Goldin-Meadow et al. 2008)。この結果は、実験参加者の母語の基本語順が SOV (トルコ語など) か SVO (英語など) かにかかわらず同じであった。しかし、動作主も対象も人間であるような意味的に可逆な事象 (「女の子が男の子を押した」) の場合は、どの言語の話者も SVO に対応する「動作主・動作・対象」を多く用いた (Gibson et al. 2013, Hall et al. 2013)。このことから、人間にとって自然な思考の順

序は「動作主・対象・動作」と「動作主・動作・対象」で、それを反映して音声言語においても手話言語においても SOV や SVO を基本語順とする言語が多いのではないかと考えられている (Goldin-Meadow et al. 2008)。しかし、先行研究は全て SO 言語の話者を対象にしている。OS 言語の話者でも同じ結果が得られるのだろうか。

そこで、同様のジェスチャー産出実験を用いてカクチケル語話者の思考の順序を調べた。その結果、カクチケル語話者も非可逆事象では「動作主・対象・動作」を、可逆事象では「動作主・動作・対象」を最も多く用いた。カクチケル語の統語的基本語順であり、理解や産出の処理負荷が最も低い VOS に対応する「動作・対象・動作主」の順序のジェスチャーはほとんど産出されなかった (Koizumi 2023)。

以上のことから、OS 言語であるカクチケル語の話者においても、出来事を認識・記憶・表現するには脳内において動作主の処理が対象の処理に先行し、それを反映してカクチケル語で話す際に動作主で始まる SVO が高頻度で用いられるものと考えられる。

この仮説をさらに検証するために、絵に描かれた出来事をカクチケル語で表現する新たな実験を行った (Koizumi et al. 2019)。その結果、SVO 文を産出するときだけでなく VOS 文を産出するときにも、カクチケル語話者は絵の中の「対象」よりも「動作主」を先に注視する (注意を向ける) ことが分かった。また、絵が呈示されてから文を言い始めるまでの時間 (発話潜時) は、SVO 文の方が VOS 文よりも短かった。この結果は前段落の仮説と整合的である。

要約すると、本チームが実施した一連の実験によって、カクチケル語の理解や産出の際の処理負荷は統語処理の複雑さに応じて VOS が他の語順よりも低いが、産出頻度は思考の順序を反映して SVO が最も高いことが分かった。つまり、処理負荷を決定する主たる要因 (統語的複雑さ) と産出頻度を決める主たる要因 (思考の順序) が異なることを、世界で初めて実証した。話者数の多い言語だけでなく、多様な言語を研究することの重要性が再確認された。

謝辞

本研究は、科研費 (19H05589) の助成を受けた。

参考文献

文献は、下記書籍の参考文献リストを参照されたい。
Koizumi, M. (2023). *Constituent Order in Language and Thought*. Cambridge: Cambridge University Press.

指さしと相互行為

会話における指さしの多様な働きと指示の達成

安井 永子

名古屋大学

会話において会話参加者が用いる指さしには、特定の方向や物体を指示するだけでなく、会話の進行に関わる働きをするものもある。本講演では、直前の発話の話し手、もしくは発話中の話し手に対し、別の会話参加者が指さしを向ける例を扱い、そのような指さしが、直前の話し手の発話や振る舞いを文脈指示しつつ、それに関わる新たな活動の開始を組織する手段となることを示す。さらに、そのような指さしの働きが、指さしジェスチャーとそれが向けられる対象のみによって可能となるのではなく、指さしジェスチャーが産出される会話の連鎖構造内および発話内のタイミング、共起する発話や他の身体動作等との関連の中で形成されるものであることも示す。

1. はじめに

指さし(ポインティング)は、指を用いて、特定の方向や場所や対象に受け手の注意を向けさせる指示行為である(Kita 2003, 安井・杉浦 2019)¹。指さしは、人間が日常においてもっとも頻繁に行う行為の一つであることから、これまで、心理学、子どもの発達研究、言語学、文化人類学、ジェスチャー研究、会話分析などの様々な分野において注目されてきた。それらの研究の多くは、指さしの指示行為に焦点を当てたものであるが、「会話分析(conversation analysis)」を用いた相互行為の指さし研究は、指さしが指示のみならず、会話の進行において様々な働きをすることも明らかにしてきた。本講演では、会話分析研究の成果を概観しつつ、指さしを相互行為の具体的文脈と展開の中に位置付けることで初めて、指さしが指示を達成する過程や指さしの会話での働きが明らかになることを示す。

2. 会話分析による指さしの解明

対面の状況では、人々は互いの身体を観察することができ、伝達を意図していない身体の動きなども、常に意味のあるものとして他者にとらえられてしまう可能性がある。自然会話の動画データを用いる会話分析は、人々がそのように断続的に影響を及ぼし合う「相互行為(interaction)」において、人々の発話や動きが、周囲の物理的環境や、人々が従事する活動などの中で相互に意味を補い合うことで、包括的に行為を形成することを示してきた。同様に、指さしによる指示行為が、それに伴う発話や他の

身体動作、参加者の身体の向きや配置、進行中の活動、会話における行為の連鎖、指さしが起こるタイミングなどとの呼応を通して達成されることも示してきた(Goodwin 2000, 2003 a, b, 2007, Mondada 2014 a, b)。また、指さしが話し手単独の行為ではなく、話し手が、受け手の視線や振る舞いに合わせて発話と指さしの産出タイミングを微細に調整し、受け手の注意を指示対象へと正確に導くことも示されてきた(Goodwin 2007, Hindmarsh & Heath 2000, Mondada 2014 a, b)。

指さしが相互行為の中で指示以外の働きをすることも明らかにされている。例えば、Mondada (2007)は、目の前に広げられた図や書類を参照しながら行われるミーティングにおいて、図や書類に向けられる指さしが、発話順番の開始を示したり、発話順番を取得する意思を前もって示したりする手段となることを報告している。そのような指さしは、進行中の発話順番の構造に敏感に反応するタイミングで開始されたり、保持されたり、消失したりすることで、発話順番取得のための手段となっている。

3. 直前の話し手に向けられる指さし

ここで、会話の中で指さしが用いられる例として、上記のMondada (2007)同様、指さしが会話の進行を管理するケースを見てみよう。特に、指さしが目の前の相手、とりわけ、直前の話し手に向けられる場面を例に挙げる。以下は、A、B、C、Dの4人の大学生による会話からの断片である。Aが「だからって言ったらいいやん」(5行目)と、Dに対して方言(「だら」)

1 指以外の身体部位や道具を用いた指示行為には「ポインティング」という語が用いられるが、ここではそれらも含めて「指

さし」という語を用いる。また、指示行為を「指さし」、指さしのために用いるジェスチャーを「指さしジェスチャー」と区別する。

を使うよう提案した直後、D の隣にいる C が A を指さし、「いいやんって言ったいま」と言いながら笑っている(7-8 行目)。そして、その指さしを保持したまま、D へと視線を移動させている。

[Sakura 01]

- 1 A: 喋り方なんだからどンドン方言出したら=
 2 B: =ん
 3 (1.0)
 4 D: ほうげ[んならんよ
 5 A: [だら:って言ったらいいやん ((D に))
 6 D: hhh
 7 **C:い+いや*んっ +て(h)言(h)った*(h)**
 C 視 * A に視線 *視線移動->
 C 身 +手を上げ始める+A に指さし----->
 8 **°い*(h)+[ま(h)?°+***
 9 D: [heh hehe
 C 視-->* D に視線 *
 C 身-指さし>+ 手を下げる+
 10 D: h[ehe
 11 A: [ちゃ-俺いいやんってさ元々さ: ()
 12 使って>なかったのにさく
 13 タツキが使うじゃ:ん.(.)うつったんだって.

まず、5 行目の発話の直後に C が A に向ける指さしは何を指示しているのだろうか。指さしジェスチャーは A に向けられているが、それとともに、「いいやんって言った」という発話がなされる。これにより、C が指示しているのが、A のみならず、A が「いいやん」と発したその振る舞いをも含んでいることがわかる。

それでは、A の直前の振る舞いを指示することで、C は何を達成しているのだろうか。C は「いいやんって言ったいま」と笑いながら発しつつ、指さしを A に向けたまま、D に視線を移動させる。これにより、C は A の振る舞いを、「笑うべきもの」として焦点化し、D から笑いを誘っていると考えられる (Jefferson 1979)。このように、A の直前の振る舞いについて、D から笑いを誘うことは、A への「からかい」とみなせる行為である。実際、D は 10 行目で、C に対して笑いで応答している。つまり、C は、指さしによって直前の話し手の振る舞いを文脈指示しつつ、それにかんして新たな連鎖を開始させている。A を指さすことで、A の直前の振る舞いを笑いの対象として示しつつ、D へと視線を移動させることで、笑いを引き出す対象として D を指名している。こうして、からかいのための「参加の枠組み」を視覚的に示し、からかい連鎖を開始させているのである。

以上の事例では、直前の話し手に向けられる指さしが、その話し手の振る舞いを文脈指示するのみならず、その指示対象に関連した行為(からかい)の形成にも関わっていた。さらに、からかいに対する応答を引き出すための参加の枠組みの提示にも貢献していた。これは、受け手の注意をひくという基本的な指

さしの働きが、発話や笑いや視線などの他の資源とともに、会話における展開の特定のタイミングにおいて、特定の対象に対して発揮されることにより達成されていると考えられる。

4. まとめ

指さしが何を指示し、会話において何を達成するかは、指さしジェスチャーとその対象のみから特定できるものではない。また、相互行為の個別の文脈から切り離して捉えることができるものでもないため、指さしの機能を単純に一般化することもできない。そのため、会話における指さしの指示対象と働きを理解するためには、会話参加者による行為のやり取りの展開、その展開の中で指さしジェスチャーが産出されるタイミング、それが向けられる対象、共起・近接する発話や視線、参加者の身体の向きや参加者間の位置関係など様々な要素の関わりを、一つ一つの例に対して具に記述する必要があるのである。

参考文献

Goodwin, C. (2003 a). The body in action. In Gwyn, R. & Coupland, J. (eds) *Discourse, the Body and Identity* (pp.19-42). New York: Palgrave Macmillan.
 Goodwin, C. (2003 b). Pointing as situated practice. In Kita, S. (ed) *Pointing: Where Language, Culture and Cognition Meet* (pp. 217-241). Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum.
 Goodwin, C. (2007). Environmentally coupled gestures. In Duncan, S.D., Cassell, J. & Levy, E.T. (eds) *Gesture and the Dynamic Dimension of Language* (pp. 195-212). Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
 Hindmarsh, J. & Heath, J. (2000). Embodied reference: A study of deixis in workplace interaction. *Journal of Pragmatics* 32(12): 1855-1878.
 Jefferson, G. (1979). A technique for inviting laughter and its subsequent acceptance/declination. In Psathas, G. (ed) *Everyday Language: Studies in Ethnomethodology* (pp. 79-96). New York: Irvington.
 Kita, S. (2003). Interplay of gaze, hand, torso orientation, and language in pointing. In Kita, S. (ed) *Pointing: Where language, culture, and cognition meet* (pp.307-328). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
 Mondada, L. (2007) Multimodal Resources for Turn-taking: Pointing and the Emergence of Possible Next Speakers. *Discourse Studies*, 9(2): 194-225.
 Mondada, L. (2014). Pointing, talk, and the bodies: Reference and joint attention as embodied interactional achievements. In Seyfeddinipur, M. & Gullberg, M. (eds) *From Gesture in Conversation to Visible Action as Utterance: Essays in Honor of Adam Kendon* (pp. 95-124). Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
 安井永子・杉浦秀行 (2019) 「相互行為における指さし —ジェスチャー研究, 相互行為研究による成果」安井永子・杉浦秀行・高梨克也 (編) 『指さしと相互行為』 3-34: ひつじ書房.

現代ラオス手話の語順

池田 ますみ^{1,*} 遠藤 栄太²

¹ 国立民族学博物館 ² 香港中文大学 *Corresponding author

ラオスは東南アジア内陸に位置し、多くの民族語が話されている社会主義国家である。公用語のラオス語¹は基本語順が SVO で、語順が重要な要素を占めていると言われている。ラオス手話は、古代ラオス手話に関して記録に残されていないなど、今もなお不明な点が多い。起源については、1990 年ラオス保健省がろう教育の実践を目的とした手話学習のために看護師や療法士5名タイへ派遣されことから、現代ラオス手話が生まれたといっても過言ではなかろう。その結果、現代ラオス手話はタイ手話から影響されたものとなっている。

ラオス手話の基本語順は SOV だが、一致動詞のある文では SVO も観察されている。疑問文では語順の変化がなく、否定文では否定詞が文末にくる。今後は、動詞の種類による語順の変化や、副詞などの項以外の位置など、さらなる研究が期待される。

1. ラオスのろう教育とラオス手話

1.1. ラオスのろう教育の歴史

1990 年ラオス保健省から看護師や療法士5名タイへ手話学習を目的に派遣される。その2年後 1992 年首都ヴィエンチャンろう学校設立される。次に 1996 年サワンナケート県ろう学校設立されるにも校長逝去により 2010 年廃校となる。2008 年3校目のルアンパバーン県ろう学校設立。2018 年これまでろう教育の管轄であった保健省から教育スポーツ省へ移管。現在 2 校。(情報提供:ラオスろう協会²)

1.2. ラオス手話

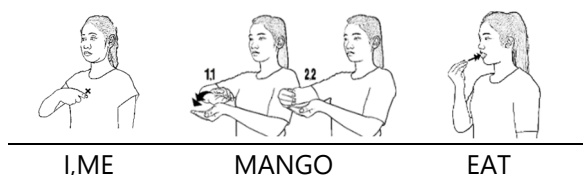
昔のラオス手話については記録が残っていないために不明な点が多いが、現代タイ手話と土着の手話とが混交したものが存在したと思われる (Woodward 2010)。なお、現代タイ手話は ASL の影響を強く受けている (Woodward 1996) ため、現代ラオス手話も間接的に影響を受けているといえよう。実際、発表者が日頃相談しているラオス手話話者は全て「タイ手話と語順が同じ」と証言しており、「タイ手話は SOV の場合が多い」との研究報告もあ

る (Woodward et al. 2015)。よって、「ラオス手話とタイ手話は特徴が同じ」と言えよう。ただし、影響の有無についてはさらなる研究が必要である。

2. 現代ラオス手話の語順 (ADDP 2023)

2.1. 平叙文

(1) 平叙文



「私はマンゴを食べる」

SOV の原因として、①言語類型論的に世界で最も多い語順 SOV であること (WALS on line (Dryer 2013))、②若い手話言語の研究などによると、S と O が意味論的に非交換な場合 (semantically non-reversible) SOV が多く (Sze 2021)、歴史の浅いラオス手話も同様である可能性が高いこと、の 2 点が考えられる。

1 (音声)ラオス語はラオス人民民主共和国の国語で、語彙は語形変化せず、日本語のような助詞もなく、語順が重要な要素を占めており、文の基本語順は「主語+述語+補語」(東京外国語大学言語モジュール ラオス語 2022)。

2 ラオスろう協会 (英語名: Laos Association For the Deaf) は、2003 年設立の「ラオス身体障害者団体ろう部会」を前身に、2013 年「ラオスろう協会」として政府に正式認定される。2022 年現在、本部は首都ヴィエンチャンのみで、支部はない。会員は 215 名。なお、世界ろう連盟 (WFD) に昨年 (2021 年) 加盟した。

(2) 一般動詞



YOU BANANA HAVE

「あなたはバナナを持っている」

(3) 一致動詞



HE/SHE-a a-HIT PHAIVAN

「彼はパイワンを殴る」[パイワンは人名]

ラオス手話の一致動詞では、SVO になるもの(例: 打つ、質問する、手伝う、など)もあれば、SOV のままのもの(例: あげる(英語の give に相当; CL になるから?)もあり、全ての一致動詞で検討していないので理由は不明である。

2.2. 疑問文

(4) Yes/No 疑問文



YOU MAN?

「あなたは男ですか？」

Yes/No 疑問文の NM(眉上げ・目開き・口普通・頭前・身体が横に傾き; y/n) が最後の単語(MAN)と共起している。

(5) WH 疑問文



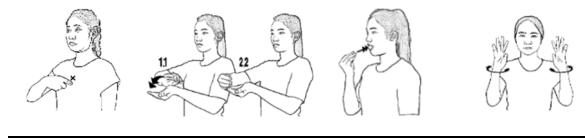
YOU NAME WHAT?

「あなたの名前は何ですか？」

WH 疑問文の NM(眉上げ・目普通・口半開き・あご少し上げ・身体前; wh; HOW は肩すくみ、WHY は眉ひそめが追加) が最後の単語(WHAT)と共起している。

2.3. 否定文

(6) 否定文



I, ME MANGO EAT neg
NOT

「私はマンゴを食べてない」

否定の NM(口半開き・首振り; neg) が最後の単語(NOT)と共起している。

3. まとめと今後の課題

語順については、基本語順として SOV が確認されたものの、いまだ解明されていない点が多い。今後は、アジア全体の手話研究に貢献できるような詳細な研究が必要であろう。

参考文献

- ADDP. (2023). Modern Laos Sign Language Student Handbook 1. Funded by Nippon Foundation, Tokyo, Japan. In press.
- Dryer. (2013). 3. Order of Subject, Object and Verb. In: Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.). The World Atlas of Language Structures Online. Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology. Available <http://wals.info/chapter/81>
- Sze, F. (2021). Effects of the Semantic and Morphological Factors on Word Order in Simple Transitive Clauses in Three Asian Sign Languages. *Senri Ethnological Studies*, 107, 5-41.
- Woodward, J. (1996). Modern Standard Thai Sign Language, Influence from ASL, And Its Relationship to Original Thai Sign Varieties. *Sign Language Studies*, 91(90), 227-252.
- Woodward, J. (2010). Some Observations on Research Methodology in Lexicostatistical Studies of Sign Languages. 38-53. Oxford University Press.
- Woodward, J., Danthanavanich, S., & Janyawong, P. (2015). 26 Modern Thai Sign Language. In J. B. Jepsen, G. De Clerck, S. Lutalo-Kiingi & W. B. McGregor (Eds.), *Sign Languages of the World - A Comparative Handbook* (pp. 629-648) De Gruyter Mouton. <https://doi.org/10.1515/9781614518174-032>
- 東京外国語大学. (2022). 東京外国語言語モジュール ラオス語. <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/lo/>

指差構文にみるオシツオサレツ表象

末森 明夫

国立研究開発法人産業技術総合研究所

本稿は日本手話の指差構文にみる文末指差や指差語順に焦点をあて、多重文法モデルにおける用法基盤文法に含まれる左方転位構文や無助詞構文を援用し、指差構文には指差の例示機能ないし代名詞的機能を踏まえた構文的指差(=代名詞的指差、例示的指差)と談話的指差の階調的かつ階層的な構造が窺えることを詳らかにした。このような指差の確率的挙動は、目的論的意味論にみる記述表象と指令表象の階層的構造を示すオシツオサレツ表象でもあることが窺われる。

1. 指差構文

1.1. 非言語的指差

従来の手話言語学は手話言語にみる指差を代名詞に対応つけてきた。鳥越(1991)や原(2014)は日本手話にみる文末指差の代名詞的機能を分析している。

一方 Cormier(2013)や Fenlon(2019)は英国手話にみる代名詞的指差(pronominal pointing)と動作的指差(pointing gesture)の混在的様態および手話言語にみる指差の記号論的考察に言及している。

1.2. 多重文法モデル

兼安・岩崎(2017)は言語使用者が多様な言語使用環境 genre ごとに用法基盤文法を多面的かつ多層的に獲得し運用する実態を与件とする多重文法モデルを提唱した。大江ほか(2020)は多重文法モデルを援用し、日本語の会話にみる左方転位構文の使用頻度を分析を通して、話し言葉か書き言葉かという二項対立構造では捉え難い独演調談話を範疇化するとともに、日本語には会話文法、書き言葉文法に加えて講演文法が存在する可能性を提示した。

ただ日本手話の指差構文にさまざまな用法基盤文法が観察される可能性について十分な分析がはかられてきたとは言い難い。

1.3. 指差構文への接近法

指差の使用頻度が高い言語使用環境として、聾者(=日本手話話者)が飲食店で店員(=聴者、非日本手話話者)に注文するときや他の聾者たちに注文の内容を伝える場面を与件とする。このとき観察される指差構文として(1)~(4)が挙げられる。

- (1) [〈PT1〉〈PT_{MENU}〉〈PT1〉]
- (2) [〈PT1〉〈PT_{MENU}〉]
- (3) [〈PT_{MENU}〉〈PT1〉]
- (4) [〈PT_{MENU}〉]

しかし(1)~(4)の構文関係ないし派生関係については十二分に詳らかにされているとは言い難い。また聾者が表出した指差を店員は動作的指差として認識し、他の聾者たちは代名詞的指差として認識するのかについても不明な点が少なくない。

本稿は非構成的かつ慣習規範的な接近法でもある用法基盤文法および目的論的意味論を援用し、日本手話の指差構文にみる指差の構文的機能および談話的機能の動態的挙動を分析し、手話言語学を拡充した手話記号論の構築に資する。

2. 構文的指差

2.1. 指差にみる例示

藤川(2008)は目的論的意味論(Millikan1984)にみる領域追跡理論を援用し、指示詞「私」がある文脈(=genre)において特定の人物を示す記号として解釈され得る機序を論じた。

また菅野(1999)は Goodman 記号論にみる指差の例示(exemplification)を論じた。指差にみる例示を援用することにより、(1)にみる文頭の PT1 は必ずしも代名詞的挙動を示すとは限らず、聾者の固有名を指示すると解釈し得ることも可能になり、ここに代名詞的指差と動作的指差の重層的構造を窺うことができる。

2.2. 左方転位構文

山泉(2013)や大江ほか(2020)は日本語における左方転位構文を、左方転位要素が無助詞成文として実現し、それと同一指示の解釈を受ける代名詞が後続節に表れる構文として特徴づけた(5)。

- (5) この手袋、誰が{それを}買ってくれたの?
- (6) この手袋、誰が買ってくれたの?

指差構文(1)にみる文頭の PT1 を例示による固有名としての左方転位要素、文末の PT1 を同一指示の解釈を受ける代名詞的指差と位置づけることにより、指差構文(1)は左方転位構文に属するものと解釈し得る。

松浦(2020)は無助詞文にみる無助詞名詞句は主題的機能のある代名詞が零になった左方転位要素であるとし、無助詞文を左方転位構文に位置づけた(6)。さらに(2)は(1)の文末 PT1 がゼロ化したことにより派生した構文と解釈することもできる。

2.3. 無助詞構文

松浦(2020)は無助詞文に左方転位構文を援用するとき生じる課題を解決するために、無助詞構文を提唱した(7)。

- (7) [形式:〈X₀〉_{Npi} 〈…{Ø_i}…〉_{CLAUSE}、意味:無助詞名詞句と後続節は語用論的に関連がある。無助詞名詞句の指示対象を主題として設定し、後続節でそれについて述べる。]

左方転位構文と異なり、無助詞構文における意味解釈は代名詞的要素に還元されることなく、構文全体が持つ慣習的意味に求められる。すなわち、(2)と(3)は例示的指差を構文要素とする項構造構文(8)に図式化できる。

- (8) [〈PT_i〉_{EXE} 〈PT_j〉_{EXE}] (i, j = 1, -1)

このとき、(8)にみる例示的指差は語用論的に関連があり、文頭の〈PT_i〉_{EXE}が指示する主題を後続〈PT_j〉_{EXE}が述べる形式の下に、例示的指差2項の構文全体の意味が生じるものと考えられる。

2.4. 指差構文にみる指差順

宮下(2021)は構文文法にみる語順は項構造構文では指定されず、その他の構文との組み合わせにより決定されるとする通説に対し、語順は項構造構文自体により指定されるとの仮説を提言した。しかしながら、構文全体の意味は項構造構文の構文要素には還元されず、構文全体の慣習的意味によるため、(2)と(3)の全体的な意味は齟齬を来さないものと解釈できる。(4)は(2)ないし(3)のPT1が非手指表出、共有情報、関連文脈に置換されたものと考えられる。

3. 談話的指差

3.1. 後置代名詞

苅宿(2018)は会話における無助詞文にみる後置名詞や後置代名詞を分析し、発話内部における指示機能だけでなく、会話における共有情報や情報共有状態の提示のような談話的機能が強まる場合があることを提示した。

この言説を援用した場合、(1)にみる文頭〈PT1〉は主題化された例示的指差(=構文的指差)であるのに対し、(1)にみる文末〈PT1〉は共有情報[〈PT1〉〈PT_{MENU}〉]の提示を含蓄する談話的指差でもであると解釈することができる。すなわち、文末〈PT1〉は必ずしも文頭〈PT1〉の反復にすぎないものではなく、さまざまな機能をもつ可能性が窺われる。またこのような談話的指差は動作的指差に範疇化し得るものとも考えられる。

3.2. 遡及的指差構文

岡・赤堀(2011)は文末指差を含む手話表出(9)を受動文(10)に翻訳している。

- (9) [〈男〉〈女〉〈好き〉〈PT3(女)〉]
 (10) 彼女が彼に好かれている。
 (11) [〈PT_{TARO}〉〈PT_{HANAKO}〉〈好き〉…〈PT_{TARO}〉]
 (12) [〈PT_{TARO}〉〈PT_{HANAKO}〉〈好き〉…〈PT_{HANAKO}〉]
 (13) [〈PT_{TARO}〉〈PT_{HANAKO}〉〈好き〉…〈PT_{CLAUSE}〉]
 (14) 太郎、花子が好きだって。
 (15) 太郎は花子が好きだって。
 (16) 太郎は花子が好きということなんだよ。

ただ(9)を例示的指差を含む指差構文(11)や(12)

に遡及的に改編し、無助詞文や「XはYが〜」文(尾谷2000)を援用すると、(11)は(14)に、(12)は(15)に翻訳できることが窺われる。また(11)の〈PT_{TARO}〉(12)の〈PT_{HANAKO}〉は構文的指示機能に加えて、談話的機能も含蓄する可能性が窺われる。さらに(13)の〈PT_{CLAUSE}〉は[〈PT_{TARO}〉〈PT_{HANAKO}〉〈好き〉]を共有情報ないし共有状態確認情報として提示する談話的指差であり、(16)のように翻訳し得るものとも考えられる。

鳥越(1991)は文頭に〈PT1〉がある文よりも文末に〈PT1〉がある文のほうが自然に感じられることもであると論じている。この点については、指差構文にみる文末指差については構文的指差だけでなく、先行文脈や後続文脈との関連性を反映した談話的指差を射程に入れた分析が望まれる。

4. オシツオサレツ表象

Millikan(1984, 2021)は目的論的意味論を提唱し、志向的表象を記述的表象、指令的表象に分類するとともに、志向的表象は発話時はオシツオサレツ表象(Pushmi-Pullyu representations)であり、解釈者との相互作用により、記述的表象に留まるか指令的表象に解釈されるような確率的挙動を示すと述べた。指差構文(1)~(4)、(11)~(13)にみる指差はいずれもオシツオサレツ表象であり、構文的指差や談話的指差として機能するかどうか使用言語環境により確率的挙動を示すものと考えられる。

参考文献

- Cormier, K., A. Schembri & B. Woll (2013) Pronouns and Pointing in Sign Languages. *Lingua* 137: 230–247.
 Fenlon, J., K. Cooperrider, J. Keane, D. Brentari & S. Goldin-Meadow (2019) Comparing Sign Language and Gesture: Insights from Pointing. *Glossa* 4 (1): article 2.
 藤川直也(2008)「書評 R. G. ミリカン著、信原幸弘訳『意味と目的の世界』(勁草書房2007年刊)」『科学哲学』41(1):121–126.
 原大介ほか(2014)「日本手話の文末指さしに関する一考察」『第40回日本手話学会大会予稿集』32–33.
 兼安路子・岩崎勝一(2017)「多重文法」鈴木亮子ほか編『話しことばへのアプローチ』ひつじ書房:69–99.
 苅宿紀子(2018)「日本語の雑談における後置名詞の機能」『表現研究』107:11–20.
 松浦幸祐(2020)「無助詞構文の構文文法的考察」『日本語・日本文化研究』30:106–120.
 Millikan, R. (1984) *Language, Thought, and Other Biological Categories: New Foundations for Realism*. MIT Press.
 Millikan, R. (2021) Comment on Artiga's 'Teleosemantics and Pushmi-Pullyu Representations. *Erkenntnis*.
 宮下博幸(2021)「語順が柔軟な言語で構文の形式をどのように認定するか」『日本認知言語学会論文集』21:421–426.
 岡典栄・赤堀仁美(2011)『日本手話の仕組み』大修館書店。
 尾谷昌則(2000)「いわゆる対象の格の正体を求めて」『白馬夏期言語学会論集』12:45–60。
 大江元貴ほか(2020)「日本語の左方転位構文はいつ、どのように使われるか?」『社会言語科学』23(1):226–241。
 菅野盾樹(1999)『恣意性の神話』勁草書房。
 鳥越隆士(1991)「日本手話の文末の位置について」『手話学研究』12:15–29。
 山泉実(2013)「左方転位構文と名詞句の文中での意味的・情報構造的機能」西山佑司編『名詞句の世界』ひつじ書房:431–457。

日本手話の音声的手型と音素的手型

原 大介^{1*} 三輪 誠¹

¹ 豊田工業大学 * Corresponding Author

「日本語-手話辞典」に記載されている語に現れる手型の種類は 60 余りに及ぶが、音声的手型と音素的手型が混在している。このような状況は多くの手話辞典でも同様である。そのため、日本手話に音素的手型がいくつあるのかは明らかになっていない。本研究では、筆者らが「日本語-手話辞典」をサンプルとして作成したデータベースを利用し、対立、相補分布等の考えに従い日本手話の音素的手型の抽出を試みる。その結果、音素的手型の数は、音声的手型の数の半数程度であることが示された。

1. はじめに

本稿では、全日本聾唖連盟出版局が 1997 年に出版した「日本語-手話辞典」をサンプルとして利用し、日本手話の音素的手型の抽出を試みる¹。

2. 音声的手型と音素的手型

筆者らは、「日本語-手話辞典」に掲載されている語を音節に分解し、音節を単位として音節に含まれる手型、位置、動き等の音節構成要素をエクセルに登録したデータベース(以下、DBと表す)を作成している。DB には 60 種類余りの異なった手型が登録されている。DB は音素表記を目指しているが、作成途上のため、音素的手型と音声的手型が混在している状況である。筆者らは、DB に登録されている手型を、対立、相補分布、音声的類似等の観点から精査し、日本手話の音素的手型の抽出を試みている。ここでは、その手法やその過程から見えてきた課題について議論する。

3. 音素的手型抽出作業

3.1. 対象

紙面の都合上、すべての音素的手型をここに示すことができないため、複数の手型と対立し意味の区別に関与していると広く認識されている音素的手型(B 手型、1 手型、S 手型など)は割愛する。

また、サンプル中に 1 例または 2 例しか現れない手型に関してもここでは検討の対象から外すこととする。

3.2. 音声的類似と相補分布

音声的に異なっているいくつかの手型が、同じ音声環境に現れない場合、それらの手型は相補分布をなしており、同一の音素的手型の異音と解釈することができる。たとえば、[図 1](#) に示すように、日本手話の{東}、{普通}、{西}に現れる手型は、人差し指の指付け根関節の曲げ具合や親指の掌側への折り込み具合がそれぞれ異なっており、各手型は物理的に異なっている。ここでは、仮にこれらを、[L₁]、[L₂]、[L₃]手型と呼ぶとすると、{東}、{普通}、{西}に[L₁]~[L₃]のどれもが自由に現れることができるわけではなく、どの手型が現れるかは、手型と共起する「掌の向き」と「中手骨の方向」²(以下、「手の構え」と呼ぶ)によって決まる。「手の構え」が、「前・上」、「前下・前上」、「下・前」の環境では、それぞれ[L₁]、[L₂]、[L₃]が排他的に表れる。すなわち、各手型は「手の構え」によって相補分布しており、語の意味の区別に関与しないため、[L₁]、[L₂]、[L₃]は同一音素(仮に/L/手型とする)の異音としてまとめることができる。

1 米川(1984)は 21 種類の音素的手型とその異音となる音声的手型を提示しているがそのどちらも網羅的でない。神田(1986)は音声的手型 54 種類、神田(2010)は音素的手型 30 種類を挙げているがそれぞれ音声的手型、音素的手型のみを独立して扱っているため、音素抽出・決定のプロセスや音素とその異音の関係が不明である。市田(2022)は手型音素は 3 種

類と述べているが、紙面の都合上詳細は割愛する。

2 手の甲または掌の位置にあり手首と各指を繋ぐ長い骨が中手骨である。ここでは、中指の中手骨の CM 関節(手の甲の根元にある関節)から MP 関節(指の根元にある関節)を結び線が指し示す方向を「中手骨の方向」と定義する。



図1:音声的に異なるL手型

異なった音声的手型を同一の音素的手型にまとめることができる別の例として図2に示す2つの手型([B]と[B4])を取り上げる。2つの手型は親指が伸びているか曲げられているかで異なり、音声的に別々の手型である。これらの2つの手型の出現環境をDBで調べると、[B4]は親指の外側または人差し指の親指側が他方の手や身体部位に接触する場合(『哲学』、『休み』など)に現われ、[B]はそれ以外の場合に現われることが分かる。すなわち、両者は、「親指または人差し指の側面接触」の有無により相補分布している。そのため、両手型は手型音素/B/の条件異音と考えることができる。

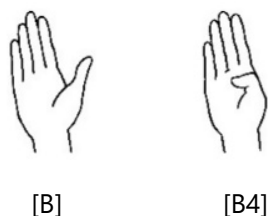


図2:/B/手型の異音

3.3. 日本手話の手型音素

筆者らは、DBに登録された約60種類の手型を、対立関係にある手型同士は異なる音素的手型、対立関係のない音声的に類似した手型は同一音素の異音として整理し、音声的手型を33種類の音素的手型にまとめた^{3,4}。

4. 今後の課題:汎用性が低い音素的手型

33種類の音素的手型の中には、今後、更なる検証が必要な手型も存在する。例えば、図3の/4/

手型は{よ}、{四}、{四季}、{四国}、{法人}等を含む10例に現われ、/R/手型は{ら}、{JR}、{ラーメン}の3例に現われる⁵。これらの手型は、少数の例を除き、もっぱら数字や指文字を表すために使われる。手型が数字を表す場合、当該手型を構成要素に含む手話の意味内容は、手型が表す数の概念を含むことになる。手型が指文字の場合、その手型が使われる手話の語と意味的に対応する日本語の仮名文字や漢字の一部を表している。これらの場合、音素的手型は何らかの意味・概念と直接的または間接的に結びついたり示唆・暗示したりするため、特定の意味内容を含む形態素や語の形成にしか関与できなくなり、音素のもつ汎用性が損なわれることになる。この点を考慮すると、図3に示したような手型は、コアに位置する音素的手型とは異なり、周辺に位置する手型として取り扱う必要があるだろう。

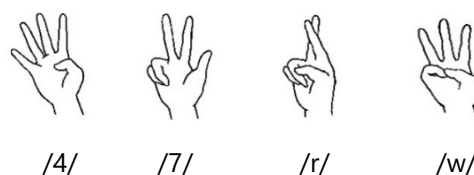


図3:汎用性が低い手型

謝辞

本研究の一部は、JSPS 科研費 JP18H00671、JP19H01702、JP19K21764 の助成を受けている。

参考文献

- 市田泰弘, 2005, 日本手話の音韻論と数詞体系, 『手話コミュニケーション研究』, 57号, 日本手話研究所
- 市田泰弘, 2022, 機能障害と言語的要素の認識, 『手話が「発音」できなくなる時』, ひつじ書房
- 神田和幸, 1986, 『指文字の研究』, 光生館
- 神田和幸, 2010, 『手話の言語的特性に関する研究』, 福村出版
- 米川明彦, 1984, 『手話言語の記述的研究』, 明治書院

3 DB中出現頻度が2以下であった7種類の手型は33種類の音素的手型の中には含まれない。

4 音声的手型か音素的手型か取り扱いが定まらないものは、暫

定的に音素的手型として数えた。

5 市田(2005)はこれらを漢字語・マーク語・指文字語と呼び、音韻体系の例外としている。

文末詞としての日本手話関西地域変種 /ほんま/をめぐる考察

森 壮也^{1,*} 松谷 千寿²

¹ 日本貿易振興機構アジア経済研究所 ² 奈良県 * Corresponding Author

ろう社会でよく知られている日本手話の地域的な変種としては、関西地域変種と関東地域変種がある(相良 2020、「これが大阪の手話でっせ」出版編集委員会 2001、今里 2014, 2019)。しかし従来のこの2つの変種についての関心の多くは、/名前/という手話の表出形式の違いに見られるように語彙ベースの分析であり、関東地域変種とは異なる言語形式についての指摘である。今里(2014, 2019)は、そうした語彙ベースの違いではなく、この変種の Aux や/来る/における文法化の過程を分析している点で注目すべきものがある。本稿は、これとは少し異なるが、やはり文法化の過程の中で起きた音声関西地域変種の「ほんま」と同じ口型(マウジング)を持つ/ほんま/という手話に着目して、この/ほんま/が手話関東地域変種とは違う使われ方をしていることを紹介し、その使われ方が音声関西地域変種ともまた少し異なること、マイノリティ言語である日本手話がマジョリティ言語である音声日本語から影響は受けていても、手指日本語とは異なり、必ずしも音声日本語と同じ使われ方が発達するわけではないことを興味深い言語的事実として示そうとするものである。

1. はじめに

いわゆる音声日本語関西地域変種(以後、日本語^Wと標記)については言語の問題ゆえ、行政区域で分けられるというものではなく、あるいい方が行政区域のごく一部でだけ使われてる、または逆に複数の行政区域を跨いで使われているということはおく普通にあるものと考えられる。このため、ここでいうのは、かなり便宜的な言い方であり、標準語とは異なった関西地区で話されている地方変種というくらいのものだと思って頂きたい。その上で、今回特に注目するのは「ほんま」という語である。

この語は、標準語の「本当」という語と同じ意味を持つとされ、江戸時代初期から使われているという(井之口・堀井 1993:229-230; 堀井 1999:223)。

通常は京言葉では

- (1) 「それがほんまにおいしいおあがりかたどすのすえ」
(真下 2006:176)
- (2) 「このカリフラワー、ほんまにおいしいわア。」
(真下 2006:214)

大阪言葉では

- (3) A: あんた、年いくつやのん。
B: もう 70 やねん。
A: いや、ほんまかいな。ずっと若う見えるで。
B: ほんま、ほんま。うち、嘘言えへんで。

(彭 1993:57)

のような使われ方をする。

そしてこの語が興味深いのは、日本手話関西地域変種(以後、日本語^Wと標記)においてもマウジング(口型)で、この「ほんま」を借用した手話/ほんま/が存在すること、その一方で日本語^Wの「ほんま」と日本語^Wの/ほんま/の間には異なる用法があるということである。本報告では、この手話/ほんま/の使われ方について報告する。特に日本語^W¹では見られない文末表現に注目する。

2. 日本手話関西地域変種/ほんま/

2.1. 事例

標準的な日本語の/本当/と同じような使われ方も/ほんま/には存在する。

1 日本語^Wの文末表現については、平山・郡編(1997:23-48)が詳しいが、本稿で述べるような「ほんま」の使い方は見られな

い。また日本の方言における文末詞については、藤原(1972)を嚆矢として多くの研究が存在する。

- (4) /ほんま/ /難しい/ ネ(口型)/ほんま/
(本当に難しい)
- (5) /今日/ /今日/ /必要/ /今日/ PT₃ /昨日/ ₂/言う/₁
/ほんま/ /準備/ /ない/ PT₁
(今日の今日、これが必要よ。昨日言ってくれればい
いの、本当に何の準備もしていないわ)²

これらは先の(1)や(2)の「ほんまに」、あるいは(3)と同じ「ほんま」と同じ副詞的な用法と言える。語順としては、/ほんま/+「動詞または形容詞」である。ところが、/ほんま/にはこれだけではなく、以下のような用法がある。

- (6) PT₁ /決める/ /ほんま/ PT₂
「私が決めるはずだったのにそうしなかった。」
- (7) /分かる/ /簡単/ /説明/ /ほんま/ PT₂
「分かりやすく説明してくれるべきなのに
そうしなかった。」
- (8) PT_{2-pl} /相談/ /から/ /決める/ /ほんま/ PT₃
「皆で相談してから決めるのが本当なのにしなかった。」
- (9) /けれども/ /まず/ /本人/ ₁/会う/₃ ₁/話す/₃ /次/
₁/会う/₄ ₁/話す/₄ /ほんま/ PT₄
「とは言っても本人に直接会って話しをしてから
(別の相手と)話すべきだったのにしなかった。」
- (10) /ろう/-/学校/ /場所/ /幼稚/-ブ /から/ /手話/
/教える/ /ほんま/ PT₃
「ろう学校幼稚部から手話を教えるべきなのに
していない。」
- (11) /やる/ /ほんま/ PT_{3-pl} /待つ/ PT_{3-pl}
「ちゃんとやらないとだめででしょう。
みんなも待っているんだから。」
- (12) /会社/ /来る/ /遅い/ PT₂ /早い/ /来る/ /ほんま/
「あなたは会社に来る時間が遅いじゃない。
早く来ないとだめでしょう。」

2.2. 分析

これらの分析から見えてくるのは、日本語^wの「本当」という標準語と同じ意味を持つような用法である(4)や(5)とは異なる用法として、(6)~(12)の用法が見られるということである。

(6)~(12)はいずれも直前の動詞をAとすると「(本来)AすべきだったのにAしなかった」という意味である。/ほんま/の後には、主語を示す文末の指差しが挿入されることが多い。

これは、現実には起こったこととは違うことを伝える時に用いられる英語の仮定法過去と同様の使い方である。英語の仮定法過去では、現在の状況と違うことを過去形を用いて願望のモーダリティを表す用法である。英語では、時制で距離を作ることで、心理

的な距離(現実性)を表す形式が取られている。

同じことが日本手話^wでは、/ほんま/という語を動詞の後に付加することで果たされている。この用法は、標準日本手話ではあまり見られない用法である。またこの用法は、音声言語でも、日本語^wや標準日本語でも見られない。文法化(脱語彙化)のプロセスが進行中であると考えられる。

3. おわりに

本稿では日本手話^wに見られる/ほんま/という日本手話の関東地域変種あるいは標準変種とは異なるマウジングを持つ語彙が文中で動詞に後置された時、元々の「本当」という意味を半ば失って、反現実現在と願望のモーダリティという機能を持つに至っていることを指摘した。

なぜこのような用法が生じたのか、その文法化の過程と世代別の用法の変化については、まだデータを十分に収集できていないため、今後の課題である。また日本語^wでも似たような「ほんま」の用法があるという指摘もある(ただし頻度は手話に比べると低い)ことから、それとの再度の比較も今後の課題となっている。

謝辞

本稿がなるにあたっては、関西地域のネイティブろう者複数に例文の収集でお世話になった。また日本語^wについては、日本語^wネイティブの安場淳氏にデータの収集等でお世話になった。その他、お世話になった皆様にこの場をお借りして感謝したい。

参考・引用文献

- 浅田秀子(2017)『現代感動詞用法事典』東京堂出版。
井之口有一・堀井令以知編(1992)『京ことば辞典』東京堂出版。
今里典子(2014)「日本手話における主語/目的語標示の助動詞について」『言語研究』146:31-50。
今里典子(2019)「日本手話の「来る」の分析」『神戸市立工業高等専門学校研究紀要』57:55-60。
「これが大阪の手話でっせ」出版編集委員会(2001)『これが大阪の手話でっせ』星湖舎。
相良啓子(2020)「日本手話、台湾手話、韓国手話の二桁から四桁の数の表現における変化:「10」「100」「1000」に着目して」『国立民族学博物館研究報告』44(3):557-583。
平山輝男(編者代表)・郡史郎編(1997)『日本のことばシリーズ27 大阪府のことば』明治書院。
藤原与一(1972)『方言文末詞(文末助詞)の研究(上・中・下)』春陽堂書店。
彭飛著・ダニエル ロング(例文英訳)(1993)『外国人留学生から見た大阪ことばの特徴』和泉書院。
真下五一(2006)『復刻版 京ことば事典』アートダイジェスト。

² <https://twitter.com/kazueDEAF/status/1506803728854425603?s=20&t=IM2ZgyP72S2P1ksADBfkpg> より記述

手話言語における「心」

高山 守

東京大学

「心」とは、日本語使用者にとって、このうえなく身近な言葉である。「心変わり」「心構え」「心苦しい」「心遣い」「心ない」「心残り」等々、その用例は枚挙にいとまがない。では、手話言語において、あるいは、手話言語を母語とするろう者にとっては、どうなのだろうか。実は、「心」の了解形態は、この両者にとって、まったくと言っていいほど異なるのではないだろうか。

1. 手話言語における「心」

まずは、「心」の手話表現に関し、手元の四つの手話辞典を参照しよう(1.『わたしたちの手話 学習辞典』(一般社団法人全日本ろうあ連盟編集 2013年) 2.『新 日本語-手話辞典』(米川明彦監修 2011年) 3.『手話・日本語大辞典』(竹村茂著 1999年) 4.『すぐに使える手話辞典』(米内山明宏監修・緒方英秋著 2011年))。

これらの辞典によれば、「心」の手話表現には、大きく二つの表現形態がある。一つは、<腹>に定位するもの(《表現 A》)で、腹を指さしたり、人差し指の指先や手などを腹にあてたりする(辞典 1, 2, 3)。また一つは、<胸>に定位するもの(《表現 B》)で、左胸もしくは胸の中央に、人差し指で円を描く(辞典 3, 4)。これらが「心」の手話表現であるという。ただ、私たちの研究グループにおいては、さらに第三のものがあげられている。それは、<頭>に定位するもの(《表現 C》)で、主として、通常「考える」とか「思う」とかを意味する手話表現である。

こうした「心」の手話表現をもとに、手話言語においても、たしかにさまざまな「心」をめぐる諸表現が展開される。たとえば、「心変わり(心+変わる)」「心構え(心+準備)」「心苦しい(心+苦しい)」「心遣い(心+使う)」「心づもり(心+つもり)」「心強い(心+強い)」「心ない(心+ない)」「心残り(心+残り)」「心待ち(心+待つ)」「心優しい(心+優しい)」「(心が)落ち込む(心+下がる)」「心細い(心+細い)」「小心(心+小さい)」等々である。

このように見るならば、手話言語においても、「心」という言葉は、日本語におけるのと同様に使用される身近な言葉であり、「心」そのものについてもまた、聴者、ろう者の間にほぼ同様の共通理解があるように見て取れるだろう。しかし、はたしてそうなのだろうか。

2. 「心」の手話表現の具体的検討

ここで、振り返っておこう。それは、手話言語においては、「心」の表現に三つのタイプがあるということである。少し詳しく見るならば、上記辞典 1 および 2 では、もっぱら腹に定位する《表現 A》が呈示され、「心が変わる」「心構え」「心細い」「小心」等が例示される。これに対して、辞典 4 では、胸に定位する《表現 B》が呈示され、「心変わり」「心優しい」「(心が)落ち込む」等が例示される。また、辞典 3 では、《表現 A》、《表現 B》のいずれもが呈示されるが、「心変わり」「心構え」「心苦しい」「心遣い」「心づもり」「心強い」「心ない」「心残り」「心待ち」等のすべての例で《表現 B》が採用され、《表現 A》は「心構え」の場合に限られる。

さらに、私たちの研究グループにおいては、すでに述べたように、頭に定位する《表現 C》が呈示されている。たとえば、「心遣い」「心づもり」「心ない」などにおいてであり、「心変わり」の場合には、前側頭付近で、ロールシフトと同様の「変化」を示す表現がなされる。このように見る限り、当然のごとく、こう了解されよう。すなわち、日本語の「心」に当たる言葉が、手話言語においても主として三通りの仕方で呈示される、と。

だが、手話言語における「心」の《表現 C》を呈示する私たちの研究グループにおいて、同時に提起されたことは、この《表現 C》をも含めて、《表現 A》も《表現 B》も、実は日本語で言う「心」とは異なるものを意味しているのではないか——《表現 A》、《表現 B》、《表現 C》のいずれもが、日本語の「心」を意味してはいないのではないか——ということなのである。つまり、この三つの表現は、そのいずれもが「心」といった共通の意味表現なのではなく、それぞれが独立で単独の、しかも、そのいずれもが「心」とは別の意味を保持しているのではないかということである。

3. 「心」とは何か

ここで問題になるのは、そもそも日本語で言う「心」とは一体何なのかということだろう。これについては、ここでは、ごく一般的な日本語辞書(『広辞苑』第六版)によろう。それによれば、「こころ(心)」とは、「からだ」に対する語で、「知識・感情・意志の総体」を意味し、さらには、「思慮」「気持ち」「思いやり」等でもあるという。つまり、それは、「からだ(体)」という外面に対する「こころ(心)」という内面であり、さまざまな知識を保持し、多様な感情を抱きつつ行為する意志のありかであり、思慮を巡らせ、多感な気持ちに動かされ、他人を思いやる、いうならば私たち自身の本体であると言うことができよう。それが日本語の言う「心」だという。

それでは、こうした日本語の「心」に対応するとみられる手話言語における「心」とは、何なのだろうか。それは、まずは《表現 C》において、頭に定位するとされた。また、《表現 B》は胸に、《表現 A》は腹に定位するとされた。これらは、かの日本語辞書『広辞苑』に即すならば、頭に定位する《表現 C》が「知識」や「思慮」に、胸に定位する《表現 B》が「感情」や「気持ち」「思いやり」に、腹に定位する《表現 A》が「意志」—「腹を決める」といった表現—に、おおむね対応していよう。日本語においては、これらが皆「心」であり、「心」のあり方であるという。

だが、すでに明らかかと思われるが、手話言語においては、日本語の「心」のように、《表現 A》、《表現 B》、《表現 C》を総括するような包括的な表現は存在しない。これらの表現は、それぞれが互いに他とは異なる固有の表現であり、むしろ、相互に密接に関連はするが、対応する日本語表現(「意志」「感情」「知識」等)と同様に、それぞれが独自の意味内容を保持していよう。つまり、手話言語においては、日本語の「心」に当たる包括的な表現(言葉、概念)は存在しないのである。

とはいえ、かの《表現 A》、《表現 B》、《表現 C》も、体という外面に対して、私たちの内面(「意志」「感情」「知識」等)を表現するという意味で、やはり日本語で言う「心」を表現しているということはないのだろうか。

4. 「心」と「体」

たしかに、日本語(あるいはおそらく多くの音声言語)においては、外面の「体」に対して内面の「心」という対比が好んで用いられ、しばしば、この内面つまり「心」の重要性が説かれる。しかし、手話言語においては、そもそも、こうした内と外との対比は成立しな

いのではないだろうか。実際、日本語では「心」という内面を意味するとされる、かの《表現 A》、《表現 B》、《表現 C》も、それぞれが明確に、外面とされる身体に位置づいている。それらは、それぞれが一定の身体感覚に根ざし、一定の身体感覚を表現しているということもできよう。つまり、そこにおいては、そもそも「心」と「体」、内面と外面が相対するということではなく、両者は一体化しているのである。

とはいえ、むしろ、日本語においても、少なからざる表現が身体に定位している。すでに挙げたように、「腹を決める」とか、また、「胸が痛む」「頭を悩ます」等々のように。こうして「心」のあり方が身体と一体であるのは、手話言語においてばかりではないと言うことができよう。だが、こうして日本語話者にとっても、「心」のあり方はしばしば身体と一体であるのだが、にもかかわらず、日本語話者は、それは身体という外面のあり方ではなく、「心」という内面のあり方なのだ、捉えようとする。

これに対して、私たちの研究グループの手話言語使用者は、こうした外面と内面、「体」と「心」の区分をきっぱりと否定する。日本語話者の言う外面と内面、「体」と「心」の一体性を、そのあるがままに捉えているということもできよう。この手話言語使用者においては、この両者は総じて一体なのである。

5. 伝統的二元論の超克に向けて

「体」と「心」を二分するという心身二元論は、ヨーロッパ哲学においては、古代ギリシアのプラトンにまでは明らかに遡るとされるが、この二元論を決定的にしたのは、やはりデカルトであろう(『岩波哲学・思想辞典』岩波書店 1998年、823頁、1205頁等)。心と身体は実体的に異なるというわけで、こうした考え方がいま現在に至るまで、一般の人たちに広く浸透していると言うことができよう。だが他方、それは、理論的には維持しがたいということで、それを克服するべく、これまで、さまざまな哲学的理論が展開されてきた。しかし、この二元論はいまなお、しぶとく生き続けている。

これを、どう超克するのか。その一つの有力な手がかりが、たしかに手話言語に見いだされるのではないだろうか。

謝辞

本研究の遂行に当たっては、5名のろう者の方々(中山慎一郎、中山圭一郎、袴田容代、石村真由美、黒田栄光の各氏)に全面的にご協力いただいた。心より感謝申し上げます。

名称:第 48 回日本手話学会大会

日時:2022 年(令和 4 年)12 月 10 日(土)10:00~17:00

会場:東京大学先端科学技術研究センター(3号館 307 室・308 室)

(東京都目黒区駒場4丁目6番地1号)

実行委員名簿 (敬称略)

日本手話学会役員 (理事 50 音順・監事 50 音順)

井上 正之、川口 聖、斉藤 くるみ、末森 明夫、原 大介、堀内 靖雄、池田 ますみ
手話通訳者 (50 音順)

岡田 直樹、加藤 裕子、小松 智美、仁木 美登里、蓮池 通子、山崎 晋、
要員 (50 音順)

木林 歩美、斉藤 みか、巴 優菜

第48回日本手話学会大会予稿集

2022 年 12 月 2 日発行

編集・発行:日本手話学会 第 48 回日本手話学会大会実行委員会

事務局:600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町 93 京都リサーチパーク 6 号館 3 階

(有) セクレタリアット内 Email: jaslinfo@jasl.jp
